洋上アルプス

NO. 8

平成７年１１月３日
屋久島森林環境保全センター発行
鹿児島県熊毛郡上屋久町宮之浦1577-1
TEL 09974-2-0331　FAX 09974-2-0333

世界遺産管理計画骨子（案）を公表

屋久島世界遺産地域管理計画骨子案の発表に対する「地元意見を聴く会」が開催されました。

これは、世界遺産に登録された屋久島の環境保全を進めるため、林野庁・環境庁・文化庁・鹿児島県で管理計画の策定に向けて協議を始め骨子案を公表、内容として工作物の新築や土砂採取などの環境保全に支障を及ぼすおそれがある行為を規制、観光客の集中による環境悪化の防止措置等が盛り込まれています。

また、十月五日には屋久町の安房公民館において、屋久島世界遺産地域連絡協議会の主催で、住民が自由に参加できる「地元意見を聴く会」が開かれ、地元二町の住民らが参加しました。

参加した住民からは、「計画案が島全体の生活振興を規制しないか」といった不安のほか、「ハード面の整備を強調して欲しい」「財政的な手だても触れるべき」など、計画の実行性を求める具体的な声も相次ぎ、活発な意見が述べられました。

さらに、十月十四日までに地元意見を文書で受付け、寄せられた意見を参考に最終的な計画がまとめられ、十二月にドイツのベルリンで行われる世界遺産委員会に報告されることになっています。

プロット設定順調に進む

保全センターでは、屋久島の森林を長期にわたり観測するため、モニタリングプロットを設定することにしており今回、森林総合研究所九州支所の協力を得て現地踏査を行いました。

現地踏査は、既に調査の終えた海岸低地林帯のプロットと、暖帯性下位に位置する照葉樹林帯の調査予定地で行いました。

モニタリングは、継続的な調査が必要であるため、設定区域の選択は特に慎重に行わなければなりません。また測定に対しても胸高周囲や樹冠配置、下層植生などを精密に行う必要があります。

現地踏査後、森林総合研究所の方から、調査に対する期待の声が聞かれました。

調査結果は、要請があれば各研究機関等へ資料として提供することにしています。

屋久島の植物

エゴノキ（エゴノキ科）

落葉小高木、樹皮は暗灰褐色、老樹になると不規則に縦裂する。新枝は鮮褐色、葉は互生し、托葉を欠き、葉裏脈腋に星状毛を生ずる。五～六月ごろ白花を垂下し、側枝に少数花よりなる頂生総状花序をなす。がくは筒状鐘形、果実の基部はがくに覆われ、先端残存花柱があり、八月以降に熟して果皮は不規則に二～三裂し、通常一個の褐色種子をだす。

樹木医が縄文杉登山

十月二二日、日本樹木医会の研修が屋久島で開催され、保全センターで樹木医二〇名を縄文杉に案内しました。

当日は、あいにくの雨でしたが、軽快な足どりでトロッコ道を踏破、急激な登りで息の上がる人もいましたが全員無事に到着しました。さすがに樹木医の先生方で植物の名前に詳しく、登山道沿いの植物相の移り変わりに興味が尽きない様子でした。

また、縄文杉や大王杉、翁杉の巨木は直接診断こそしませんでしたが、樹木医としての目で観察され意見交換が盛んに行われました。

JICA研修員来島

十月二五日、森林研究研修森林コースの一行が現地研修のため屋久島を訪れました。

研修員はボリヴィア、ブラジル、チリ、ケニア、パプァ・ニューギニアの五カ国五名の大学教授等で、八月十四日から約三ヶ月森林総合研究所が受け入れたものです。

一行は、自然遺産調整官の案内で貯木場、紀元杉、ヤクスギを中心とする天然林、屋久杉加工場を視察し、二六日には当保全センターを訪れ、保全センターの役割やスライドによる山岳部の説明を受け熊本へ発ちました。

視察では、屋久島特有の植物やヤクスギの巨木に関心が寄せられました。

保全センターチームが一位

十月十日上屋久町町民体育大会が開催され、保全センターからは、職場対抗リレーにA・B二チーム、計八名の精鋭がエントリーしました。

各選手ともこの日ばかりはリュツクに変えて職場の期待を背負い、コップに変えてバトンを握りしめて、緊張の面もちでレースに挑んだ結果、Aチームは惜しくも一位を逃しましたが、Bチームは、流れるようなバトンワークでなみいる強豪を抑え、見事一位の栄冠に輝きました。

このリレーに参加したことで保全センターのPRができたと、選手全員満足して帰路につきました。